

学校教育目標 「ともに学び自ら伸びる～自他尊重～」

	評価計画				自己評価						
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	昨年度	中間値	最終値	達成度	評価	結果と課題の分析
確かな学力・体力の向上	生徒が主体的に学ぶ教育を推進し、自分の考えを表現できる力を育成する。 (主体性と表現力の育成)	【主体性と表現力の育成】 ①学び合いたいと思える発問や提示方法の工夫を行う。 ②表現力の向上を目指した授業づくりを進める。 小中一貫教育による「主体的な学び」の深化	①-ア ディスカッション、教え合い、プレゼンテーション等、協働的に学ぶ学習スタイルの実践	・「話し合い活動に進んで参加し、自分の考えを伝えたい」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	84%		93%	B	○話し合い活動を授業内に積極的に取り入れている。 ●自由な話し合いになると、せつかく持っている自分の考えを伝えずに聞くこと中心になっている生徒がいる。話し合い方法の工夫を重ねたい。
			①-イ ICTを効果的に活用(教材提示、情報収集、思考を深める、伝え合う場面での積極的活用及び研究の推進)	・「授業におけるICTの活用は内容の理解や考えの表現に役に立っている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	80%	-	98%		123%	A	○ICTを授業の中で活用することが当たり前となり、スキルアップしてきている。その結果、100%に近い生徒が有用性を感じている。 ○「学力をより高める」「社会で通用する力を身に付ける」という視点でICT等に関する研究が校内で進み、教職員自身がICTを積極的に授業等で活用している。 ○年度当初に細かいくところまで教員間で確認し、常に共通意識をもって取り組んでいる。
			①-ウ 「本時の目標」と「振り返り」による学びの充実	・「四季中授業スタイル(「めあて」と「振り返り」、学習規律の徹底)」を実践している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)	90%	95%	91%		101%	A	
			②-ア 教科の特性を生かした表現の場の設定	学力調査(1月実施)の通過率	5教科通過率 全国平均以上	{1年} 2/3教科 {2年} 5/5教科	-	-	-	-	○4月に行われた全国学力・学習状況調査(3年生)において、国語、数学ともに県平均・学年平均を上回ることができた。 ○1、2年生は1月末に実力テストを予定している。
豊かな心	自他を認め合い、ともに高まる生徒を育成する。 (協働性と自己有用感の育成)	【協働性と自己有用感の育成】 ①自他を認め合い、ともに尊重し合うことのできる生徒を育成する。 ②集団の中での役割を意識させ、自己有用感を高める。 ③ふるさとへの愛着と誇りの心を育む。 小中一貫教育による協働性と自己有用感の醸成	①-ア 学校生活すべてを自分たちで動かす意識の育成(委員会活動、縦割り掃除等)	「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	91%	84%		93%	B	○生徒会執行部が中心となって活動をしている委員会活動において、各学年の現状を交流しながら、よりよい集団生活ができるような点検活動や呼びかけを行うことができた。 ○縦割り掃除では掃除リーダーを中心に、隅々まで美しく環境を整えることができた。 ○5月の体育祭に向け、3年生を中心に縦割り種目の練習をする様子が見られた。 ○プール掃除ボランティアや小中合同挨拶運動等を通して、自己有用感を高める取組を実施できた。 ●学級活動等でのグループエンカウンターなど、自己を見つめたり、人から認められているという認識を深める活動を積極的に取り入れていく必要がある。
			②-ア リーダーを中心とした主体的な活動の実施(生徒指導規定の点検、生徒会行事の運営)	「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	68%		76%	C	○地域の方のサポートを得ながら防災学習等を進めることができた。 ○四季中サポート隊の方と執行部が事前に連携をとり、本校のグリーン活動を実施できた。 ●「ふるさと」の良さや現状、課題等に目を向けさせ、「私たちの暮らす地域」への所属意識を高める活動を総合的な学習の時間等を中心に取り入れていく必要がある。
			②-イ 校内いじめ防止対策委員会の機能化(学年担任制を生かした全教職員による組織的対応、SC、SSW、SSRの活用による不登校生徒への対応)	「ふるさとに関心がある」と答える生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	67%		74%	C	
信頼される学校	【働きがい改革】を進め、地域と連携・協働し、教育の質を高め、信頼される学校をつくる。	【生き生きと働ける職場づくり】 ①働きがい改革を推進する。 【信頼される学校づくり】 ①がんばる姿を発信する。 ②「不祥事0」の風土を醸成する。	①-ア 協働の職場風土の醸成	・「時間外勤務45時間超」にならない教職員の割合	75%	66%	56%		75%	C	●月ごとの45時間以上の人数は4・5月9名、6月7名、7月5名であった。年度当初の業務、部活指導等を鑑みると目標値を達成するのは困難であるが、よりよい教育活動に取り組めるよう、業務改善の意識を持ち続けることが重要である。 ●働きやすい職場であるという問いに対し、肯定的評価が75%にとどまった。限られた教職員数で業務をこなすことへの負担感を感じている教職員が多いと捉えている。
			①-イ 学年担任制による業務の標準化とOJTの推進	・「四季が丘中学校は働きやすい職場だ」と回答する教職員の割合	80%	80%	75%		94%	B	
			①-ア 生徒や教職員のがんばる姿を、学校だよりや各種通信、HPIに掲載	・「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と回答する保護者の割合(保護者アンケート)	85%	82%	88%		104%	A	○各学年だより、学校だより等の各種通信やHPIにより、生徒の日々の活動の様子を積極的に発信している。また、学校行事や授業参観等で保護者や地域の方に生徒の様子を実際に見ていただく機会を設けている。これらのことが肯定的評価が高くなっている要因と考える。
【小中共通】	【協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成】	【小・中共通テーマ】 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成	・本質的な問いによる授業改善 ・合同授業研究、合同教育研究会の実施	・課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	82%	91%		107%	A	○学校行事や委員会、総合的な学習の時間など、生徒主体で行うことを増やしていることで、自分たちで考えて取り組むことにつながっている。
				・PC・タブレットなどのICT機器を使って友達と考えを交流する児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	-	92%		108%	A	○授業だけでなく、授業評価や教科の連絡など様々なことでICTを活用することを進めた。生徒にとって考えを表現するのに当たり前に使うツールとなってきた。
			・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	-	75%		88%	B	●生徒アンケートによると、肯定的評価が75%(1年生78%、2年生71%、3年生75%)であり、目標値を達成できなかった。地域の方々に様々なサポートをいただいているが、なお一層子供たちの姿を評価していただく機会を設けたり、地域に貢献するためにできることについて学ぶ機会を増やしたりする必要がある。	
			・「自分はクラスの人や友だちの役に立っている」肯定的評価の児童生徒の割合(児童生徒アンケート)	85%	-	68%		80%	B	●生徒アンケートによると、肯定的評価が68%(1年生72%、2年生64%、3年生67%)であり、目標値を達成できなかった。生徒が自己有用感をもてるよう、教職員などの大人からの評価のみならず、生徒同士の関わりを深めていく必要がある。	

評価基準表

評価基準	評価基準	目標値に対する達成度
目標値に対する達成度	A:十分に達成されている	100%以上
中間(最終)値 ÷目標値×100	B:概ね達成されている	80%以上100%未満
	C:やや不十分である	60%以上80%未満
	D:不十分である	60%未満

※複数の項目の平均値で評価する。